

## 第18回福島県理学療法士会学術集会開催される

第18回福島県理学療法士会（大会長・佐藤勢 副大会長・今野裕樹 準備委員長・川崎永大）が、2017年9月18日に福島市のとうほう・みんなの文化センター（福島県文化センター）で開催されました。大会のテーマは「温故知新 ～みんなの笑顔のリハフェスティバル～」とされ、当県士会における諸先輩方が培ってきた経験を継続しながら、これからも新しい取り組みを行っていくというものでした。

今学会では、一般演題（全45題・口述発表11題、ポスター発表34題）、市民公開講座、特別講演、シンポジウム、エキスパートセミナー、スペシャリストセミナーなど県学会としては、非常にバラエティに富んだ内容豊富なものでした。市民公開講座では、福島県立医科大学疫学講座の大平哲也教授が「笑い与健康」についてやさしく分かりやすい講義をされました。また、特別講演では、ひもろぎの園の作業療法士・石井利幸氏が「笑顔でつながる認知症援助法」について具体的な事例等も取り上げながら様々な援助法について紹介されていました。シンポジウムでは、若手、中堅、ベテランの代表として各講師が、「温故知新～各世代が考える理学療法～」を共通テーマに、それぞれの立場から興味深いコメントが発信されました。特にこのシンポジウムは、本大会のテーマを象徴する企画であり貴重で充実した内容でありました。その他にもスペシャリストセミナーでは障がい者スポーツと理学療法について紹介され、一般演題でも質の高い演題が数多く散見されました。ランチョンセミナーは2つ開催され、前日に行われたナイトセミナーも新しい取り組みとなりました。今後の当県士会の学術活動の幅がさらに広がっていく可能性を感じさせる非常に熱気のある充実した内容の大会となりました。

会報誌編集委員長 折内英則



大会運営に携わった当県士会県北支部の方々